



こなんSDGsカレッジ

～同志社大学連携プログラム～

チームクワトロ

メンバー：中、川上、笹井、根本

湖南省の強みと弱みの抽出

★強み

- ・ 多文化共生である（外国人も比較的多い）
- ・ 移住者が多い

★弱み

- ・ 若者の流出、地域への帰属意識や連帯感の希薄化
- ・ 観光地としての魅力が薄い

テーマ：シビックプライドの醸成、地域の共助

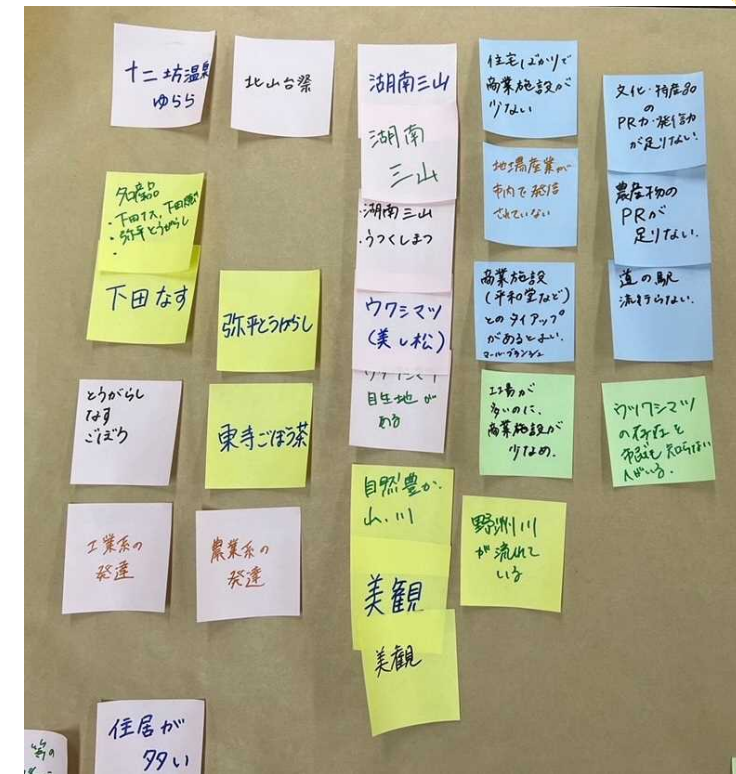
観光資源の強みと弱み

★強み

- ・ 特産品（弥平とうがらし、下田なすなど）
- ・ 工業系の発展
- ・ 美観、自然豊か

★弱み

- ・ PRが足りない
- ・ ウツクシマツの存在が知られていない



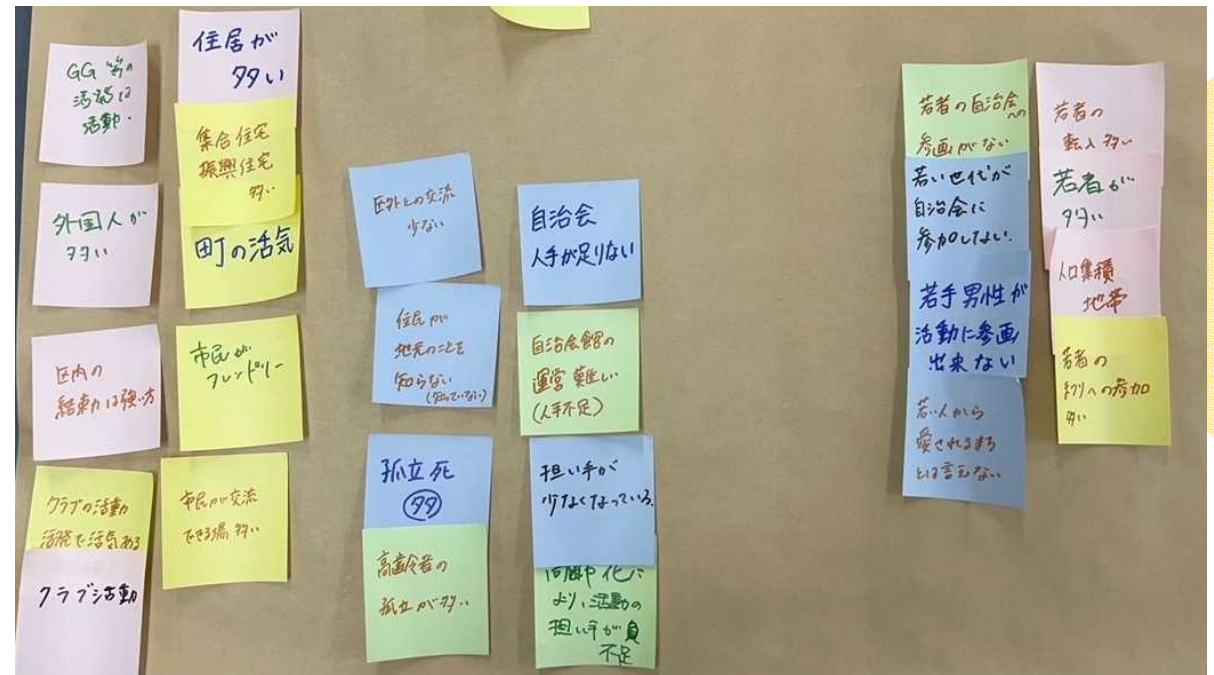
地域の強みと弱み

★強み

- ・若者の転入が多い
- ・住宅街が多い
- ・クラブ活動が活発

★弱み

- ・自治会の人手不足・担い手不足
- ・高齢化
- ・自治会の参画が少ない
- ・若い人から愛されるまちとは言えない



目標設定

- SDGsの視点

目標 1 1. 「住み続けられるまちづくりを」

目標 1 5. 「陸の豊かさを守ろう」

- 将来像

知名度の上昇、自治体に参画する人の増加

- 目標

「湖南市民がまちへの愛着と誇りを持つ」

課題解決のための3つの方針

方針① 農業の振興

目標：「若者の農業体制の構築」

弥平とうがらしや下田なすなど、湖南省だけの特産品がある。
これらの農業をさらに振興させることで、まちのPRに繋がる。

方針② 美観の維持・増進

目標：「ウツクシマツ自生地に充てる費用を増やす」

国の天然記念物である「ウツクシマツ自生地」を守る。
まちの環境を維持・増進する。

方針③ まちの魅力の発信力を高める

目標：「市内外に湖南省の魅力を発信」

①、②に関する湖南省の魅力が湖南省内・市外に広く発信する。

政策提案名

『人生100年時代を湖南省で生きる』

政策案について

第1段階



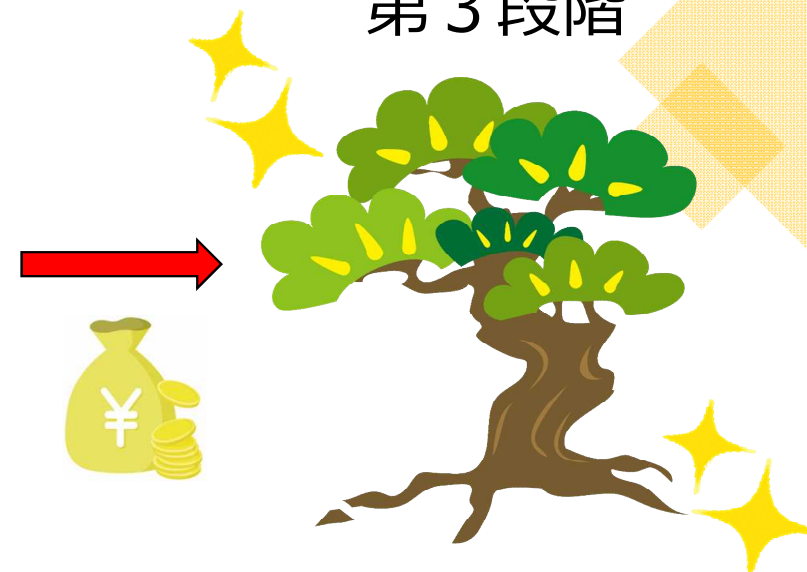
農業体験

第2段階



販売による
まちの魅力の発信

第3段階



売上の一部をウツクシ
マツ自生地保存に寄付

政策第 1 段階

休耕地を活かして、
小中学生に湖南省の
特産品の栽培を
体験してもらう。



なぜ休耕地を活用？

単位:ha

	田	畑	普通畑	樹園地	牧草畑	計
耕地面積	622	53				675
経営耕地面積	535	16	15	1		552
遊休農地面積	3.7					3.7
農地台帳面積	—	—	—	—	—	747

※1 耕地面積は、耕地及び作付面積統計における耕地面積を記入

※2 経営耕地面積は、農林業センサスに基づいて記入

※3 遊休農地面積は、農地法第30条第1項の規定による農地の利用状況調査により把握した第32条第1項第1号又は第2号のいずれかに該当する農地の総面積を記入

湖南省農業委員会の資料によると…

湖南省内の遊休地は **3.7ha**(ヘクタール)

1ヘクタールが25mプール **36**個分！

○選定基準

農振法の農用地区域(農業活用することを法律で決められた土地)
の休耕地

○休耕地を使う**メリット**として

- ・市役所側法律に基づいた土地利用が行われる
- ・地権者側土地が荒れることなく活用することが可能

政策第2段階

栽培した野菜を
全国の物産展や
ふるさと納税で販売し
湖南省の魅力を発信



政策第 3 段階

売上の一部を
ウツクシマツ自生地の
保全活動のために寄付



なぜウツクシマツの再生が必要？

「平松のウツクシマツ自生地」は国の天然記念物であり、湖南市のシンボルともいえる。



- 生み出した収益の一部をウツクシマツのために
⇒現在のふるさと納税制度を活用し、自生地の保全事業に寄付

現在、自生地に深刻な影響が出ており、保全と継承が課題となっている。

寄付金の使い道

- ・ 自生地とその周辺の整備環境
- ・ 遊歩道の整備
- ・ 枯損木の伐採
- ・ 地掻き（自生地内の土壌環境の改善）

ウツクシマツ自生地保全 ⇒ 美観の維持・増進につながる



周辺環境の整備により、観光地として確立できれば、
人も集まり、まちが活性化

まとめ

政策案を通して、若い世代が湖南省への愛着や誇りを持つ
きっかけとなることが期待される。



若い世代が湖南省から流出するのを防ぐ！

政策案の効果

政策案を通して期待できる、人口の変化について

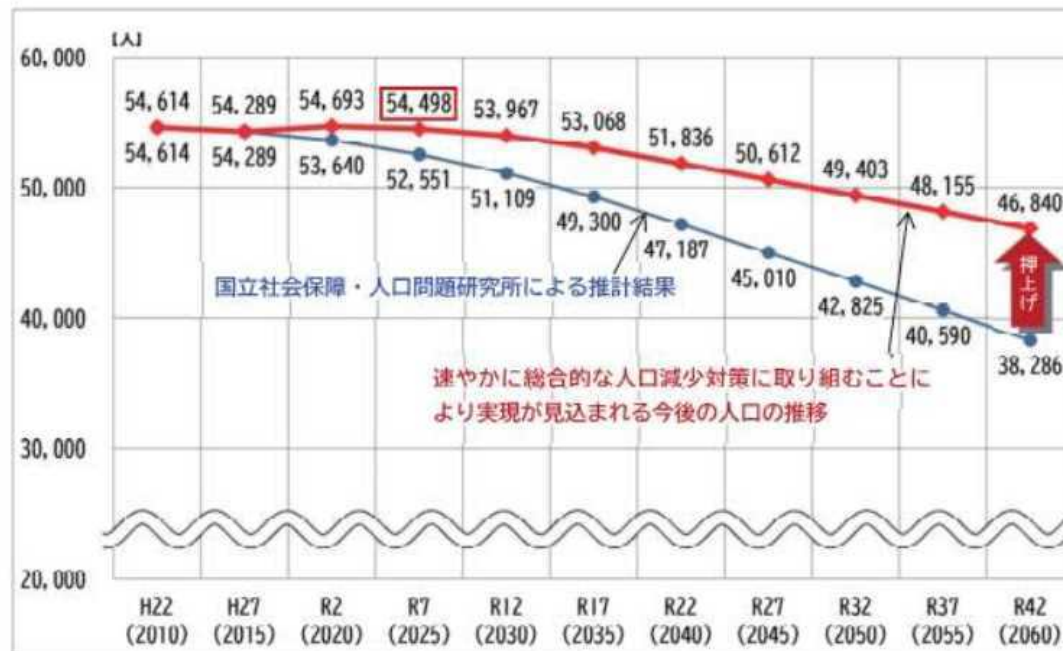


図 湖南省の将来人口の見通しと目標

2030年の目標人口である53,967人に近づける！

第二次湖南省総合計画後期基本計画P49参照

ご清聴ありがとうございました